

アウトウの高接更新に関する試験

佐藤昌宏\*・香山武司\*\*・菊地善吉\*\*\*

( \*山形県園芸試験場・\*\*山形県農業技術課・\*\*\*山形県置賜農業改良普及所 )

Studies on Top-Working of Sweet Cherry Trees

Yoshihiro SATO,\* Takeshi KAYAMA,\*\* and Zenkichi KIKUCHI\*\*\*

( \*Yamagata Horticultural Experiment Station,\*\*Agricultural Technic Section of Yamagata Prefecture,\*\*\*Okitama Agriculture Extension Office )

は し が き

昭和50年度の統計によると、山形県におけるアウトウの栽培面積は1810ha、生産量は10,600tonであり、我が国総面積の約62.8%、総生産量の約80%を占めている。栽培面積の品種別内訳についてみると、ナポレオンが68.9%、佐藤錦20.4%、高砂3.0%、その他7.7%となっており、ナポレオンの比率が極めて高い現状にあるところから、生食向出荷の拡大、収穫労力の分散をはかるためにも品種の更新が急務とされてきている。

そこで、品種更新にあたって、最も効率的な高接更新の可能性を知るために、昭和50年度から試験を実施してきたのでその結果を報告する。

試 験 方 法

樹勢中ような10年生ナポレオン(マザート台)2樹を供試し、昭和50年5月7日、直径1, 2, 3および5cmの部位に、あらかじめ低温貯蔵しておいた佐藤錦の穂木を、長さ15cm程度に切接法で一挙更新し、秋期落葉後に台木および穂木の太さ、新梢本数、新梢長、ゆ合の程度について調査し、昭和51年度は、花そう数、結実数についても調査した。

なお、切口部にはすべてゆ合剤を塗布した。

試 験 結 果

表1, 2に示すように、ゆ合の程度を切口のふさがり程度でみると、接木初年度は90%以上ゆ合したものが、1cm区は52.8%、2cm区は6.3%であるのに対し、3cm区および5cm区は0%となり、接木部位が太くなるほどゆ合しにくくなる傾向が認められた。接木2年目には、90%以上ゆ合したものが、1cm区68.4%、2cm区25.0%、3cm区23.8%、5cm区0%となり、初年度と同様に、太くなるほどゆ合が悪くなる傾向が認められた。また、1, 2, 3cm区では前年度よりゆ合が促進されたが、5cm区ではほとんど促進されなかった。

表3に示すように、接木初年度の生育調査結果について

みると、接木部位の肥大率は1cm区が2.0倍に対して、2cm区1.3倍、3cm区1.2倍、5cm区1.1倍となっており、1cm区が他区より高く、2, 3, 5cm区は同程度の肥大で推移した。新梢数は1cm区2.1本、2cm区2.0本に対して、3cm区2.4本、5cm区2.3本となり、3cm区と5cm区が1cm区と2cm区より多くなった。穂木の太さと1新梢当りの新梢長については明らかな差は認められなかったが、これは接木部の肥大率、新梢数等が影響しているものと思われた。

表1 接木部位の太さとゆ合の程度(昭50)

ゆ合の程度区	90%以上	75~89%	50~74%	25~49%	24%以下
1 cm	52.8%	41.7%	2.8%	2.8%	0%
2 cm	6.3	15.6	31.3	46.9	0
3 cm	0	0	19.0	76.2	4.8
5 cm	0	0	0	33.3	66.7

表2 接木部位の太さとゆ合の程度(昭51)

ゆ合の程度区	90%以上	75~89%	50~74%	25~49%	24%以下
1 cm	68.4%	23.7%	0%	2.6%	5.3%
2 cm	25.0	25.0	37.5	12.5	0
3 cm	23.8	19.0	23.8	28.6	4.8
5 cm	0	0	0	25.0	75.0

表3 生育調査(昭50)

項目区	台木の太さ (cm)	穂木の太さ (cm)	新梢数 (本)	新梢長 (cm)
1 cm	2.0	1.6	2.1	88.5
2 cm	2.6	1.7	2.0	83.5
3 cm	3.6	1.8	2.4	91.2
5 cm	5.5	1.7	2.3	83.7

表4に示すように、接木2年目の生育調査結果についてみると、台木の太さは、前年に比べて1cm区が1.4倍であるのに対して、2, 3, 5cm区はいずれも1.2倍となり、1cm

表 4 生育調査 (昭 51)

項目 区	台木の太さ (cm)	穂木の太さ (cm)	穂木 / 台木 (%)	2年生枝本数 (本)	新 梢 数 (本)	新梢 / 2年 生枝 (%)	新 梢 長		
							50年 (cm)	51年 (cm)	51/50 (%)
1 cm	2.8	2.7	96.4	2.1	7.8	371.4	88.5	58.2	65.8
2 cm	3.2	2.8	87.5	1.8	8.6	477.8	83.5	55.7	66.7
3 cm	4.4	3.9	88.6	1.6	11.2	700.0	91.2	59.6	65.4
5 cm	6.6	4.1	62.1	1.3	12.8	984.6	83.7	62.2	74.3

区が他区より台木の肥大率はやや高くなった。穂木の太さは、接木時の台木が太くなるほど太い傾向が認められ、前年対比でも、1 cm区が1.7倍、2 cm区が1.6倍に対して、3 cm区は2.2倍、5 cm区は2.4倍となり、接木部位が太いほど穂木の肥大率は高くなる傾向が認められた。穂木 / 台木は1 cm区が96.4%で穂木の太さと台木の太さはほとんど同程度になったが、接木時の台木が太くなると、穂木の太さは台木の太さより劣り、5 cm区では62.1%となった。新梢数は1 cm区7.8本、2 cm区8.6本、3 cm区11.2本、5 cm区12.8本と台木が太くなるにつれて多くなり、新梢の増加率も、1 cm区3.7倍、2 cm区4.8倍、3 cm区7.0倍、5 cm区9.8倍となり、台木が太くなるにつれて高くなる傾向が認められた。新梢長は各區間に明らかな差は認められなかったが、1、2、3 cm区は前年度新梢長の約65%であったのに対し、5 cm区は74.3%であり、5 cm区は他区より樹勢の落ち着きが遅くなる傾向が認められた。

表5に示すように、芽数、花そう数、結実数に大きな差は認められなかったが、5 cm区では全く結実がみられなかった。花そう数、結実数については、今後とも年次別経過を調査する必要があると思われた。

表 5 花そう数と結実数

項目 区	調査箇所数 (コ)	芽 数 (コ)	花そう数 (コ)	結 実 数 (コ)
1 cm	38	2.0	0.08	0.7
2 cm	32	2.0	0.03	0.7
3 cm	21	2.3	0.29	0.7
5 cm	4	2.3	0.25	0

注. 芽数、花そう数、結実数は接木1個所当りの個数

### ま と め

以上の結果、健全な穂木を5月上旬頃、直径2 cmまで(太くとも3 cm程度)の枝に切接することにより、ほとんど100%近い活着が得られた。ゆ合の程度もかなり良好な結果が得られ、新梢数は少なくなる傾向にあるが、新梢長は短くなり、早く樹勢が落ち着くものと思われるので、取量調査、接木時期、接穂長など解決すべき問題はあるにしても、日やけの防止、切口へのゆ合剤塗布、穂木の採取時期と貯蔵法等を配慮することにより、アウトウにおける高接更新の可能性は期待できるものと思われた。